

赤潮による養殖魚等への被害に関する現地視察及び意見交換会について

八代海で発生した、魚介類に対して極めて有害なプランクトンのシャットネラ属、コクロディニウム、ヘレロシグマ、カレニアにより上天草市や天草市でカンパチやシマアジなど養殖魚の斃死が6日時点で約26万尾確認されたため、令和6年7月6日（土）木村知事による現地視察と上天草市長、天草市長、関係漁協等との意見交換会がおこなわれ、県海水養殖漁協栖本事業所において、赤潮によるへい死魚の処理状況及び養殖業者による有害赤潮調査の様子を映像にて確認され、その後、養殖業者との意見交換がおこなわれました。

意見交換会では、藤森漁連会長より4年連続で赤潮の被害を受けた漁業者の心情を訴え、一日でも早く漁業者が安心して養殖業ができるよう出席された熊本県の関係者へ国と連携して課題の解消に向けた対策を早急に進めて頂きたいと強く要望されました。



